

令和7年度 学校評価書(共通) 1学期

校名 宇和島市立三間小学校

1 自己評価書

教育目標	笑顔で力いっぱい取り組む三間の子を育てる						
基本方針	体験・感動・発見・交流　さまざまな人との「かかわり」と「つながり」						
本年度重点目標	1 社会総がかりで取り組む教育の推進　　2 安全・安心な教育環境の整備　　3 確かな学力を育てる 4 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成　　5 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	後期のみ		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A		
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C		
			③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
					読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A		
			(成果と課題) ○地域学校協働活動推進員等と連携して、ふるさと学習を充実させることで、児童の地域への関心が高まった。 ●基礎学力が定着していない児童に対して、授業モデルNの視点に基づいた授業の実践は難しかった。 ●個別の支援が必要な児童については、家庭と協働した家庭学習を実践することに、難しさを感じた。				
			(改善策等) ○基礎的・基本的な学力や学習に向かう態度を身に付けさせることを第一と捉え、その段階から少しずつ積み上げたい。 ○取り組む内容を具体的に示し、できることから家庭で取り組めるよう支援を続けて、家庭学習の習慣化を図りたい。				
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A	
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A	
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A	
				③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート
④						自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート				
		(成果と課題) ○気になる児童については、ハートなんでも相談員に声掛けをお願いしたり、SSWとも話し合う機会を持ったりした。 ○よい行いはしっかり褒めたり感謝の気持ちを伝えたりするなど、自己肯定感や自己有用感が持てるように配慮した。 ●規範意識が十分に高まっておらず、自己有用感が持てない児童が多いように感じる。					
(改善策等) ○児童の規範意識が高まるように、全教職員が指導について共通理解をし、意識統一をして指導に当たっていきたい。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	C	C	
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C		
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A	
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
	(成果と課題) ○職場に、温かく協力的な雰囲気があり、安心して仕事をすることができている。 ●自校で設定した業務改善施策が、十分に共通理解できていない。						
	(改善策等) ○自校で策定した業務改善施策を全職員で確認し合い、取組を具体化した上で、実践を進めていきたい。 ○自分の仕事を確実にに行い周りに迷惑を掛けないことが、組織としての業務改善の第一歩であることを認識し合って業務を進めたい。						
	評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
	地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	C	B
				学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	
・保護者アンケート					A		
・地域アンケート					A		
②		情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・地域アンケート	A		
③		来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・地域アンケート	B		
(成果と課題) ○学校だよりや学級通信の発行、ホームページの更新を、それぞれ計画的に行うことができ、十分に情報発信ができた。 ●学校運営協議会の協議内容の周知や、それを受けた取組の実践が十分にできなかった。							
(改善策等) ○学校運営協議会における協議が、よりよい学校運営につながるよう、会議後の取組について、教職員間で共有する場を設定し、注力していきたい。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満